

Q1 滋賀県の人口 約137万人のうち、外国籍の人は約25,800人(平成15年12月現在)ですが、どの国(出身地)の人が一番多いかな?

- ① 中国
- ② 韓国・朝鮮
- ③ ブラジル

Q2 「ポーア タールデ」はどこの国のどんなあいさつ?

- ① フランスの「ありがとう」
- ② スペインの「さようなら」
- ③ ブラジルの「こんにちは」



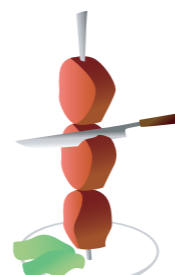
Q3 タイの代表的な料理といえば?



① キムチチゲ



② トムヤンクン



③ シュラスコ

Q4 日本の民族衣装は「きもの」。では、韓国・朝鮮の女性の民族衣装は?



① サリー



② チマ・チョゴリ



③ ポンチョ

Q1→正解は③

滋賀県にはおよそ80か国もの外国籍の人が暮らしています。1番多いのは「ブラジル」、2番目は「韓国・朝鮮」、3番目は「中国」となっています。

Q2→正解は③

ブラジルではポルトガル語が使われています。いろいろな国の言葉を覚えてみませんか。あいさつは交流の第一歩です。

①フランス語のありがとうは「メルシー」 ②スペイン語のさようならは「アディオス」

Q3→正解は②

トムヤンクンはエビのスープでタイ料理です。国や地域によって食材や調理方法、食べ方にも違いがあります。いろいろな国の料理を楽しむこともその国の生活習慣を理解することにつながります。

①キムチチゲは寄せ鍋風韓国料理 ③シュラスコは牛肉の串焼きブラジル料理

Q4→正解は②

韓国の女性は「チマ」というスカートと「チョゴリ」という上着を着ます。それぞれの国には、風土や習慣に応じた伝統的な服装があります。お互いの国の伝統や文化を理解することは、お互いを理解することにもつながります。

①サリーはインドやスリランカなどの女性が布を巻きつけて着る衣装です。

③ポンチョは南米のインディオの民族衣装で布の中心に穴をあけて着るマントのようなものです。

Q5 多くの韓国・朝鮮の人が日本に住むようになったのはいつ頃から?

- ① 江戸時代
- ② 明治の終わり頃
- ③ 第二次世界大戦後

Q6 最近、滋賀県に住むようになった外国籍の人たちからの相談で、どんな内容の相談が一番多いでしょう?

- ① 労働に関すること
- ② 住宅に関すること
- ③ 日常生活に関すること



Q5→正解は②

♥ 在日の韓国・朝鮮の人々への理解を深める

日本に多くの韓国・朝鮮人が住むようになったのは、1910年(明治43年)に日本が朝鮮半島を植民地化したため、土地や仕事を失った人々が日本へ渡ったからです。

また第二次世界大戦が始まると日本国内の労働力不足を補うため、強制的に日本に連れて来られた人もいました。第二次世界大戦の終結により帰国した人もいましたが、多くの人が日本に残ることになりました。

♥ 在日の韓国・朝鮮の人々をとりまく状況

日本の植民地政策によって生み出された偏見が今も存在し、さまざまな差別となって現れています。そのため、本名を名乗れず「通名(日本名)」を名乗っているという状況もあります。

Q6→正解は③

♥ 外国人相談の主な内容

1990年(平成2年)の入国管理法の改正により、日系人とその家族は入国条件が大幅に緩和され、日本に働きに来る人が急増しました。滞在の長期化が進むにつれ、相談内容は生活全般にわたるものとなっています。母国語での情報が不足していたり通訳がないことから、医療機関や学校生活、地域生活に関わる相談が多くなっています。また、外国人の多くは、不安定な雇用形態にあり、労働に関する相談も多くあります。

♥ 心の国際化

これからも地域における国際化が進み、言葉や習慣の違う人と接する機会が増えていきます。

まずは、あいさつから。

同じ地域に住む仲間として、一緒に行動することからはじめてみませんか。

♥ 多文化の共生

お互いの国の文化や音楽、スポーツ等を通じた交流が活発になっています。多様な文化や価値観を理解し尊重することが大切です。

♥ 在住外国人とともに暮らす地域づくり

外国語による情報の提供や日本語教室の開催などの取り組みが進められています。ともに暮らしていける社会を築きましょう。

